

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372400863
法人名	有限会社 七丈原
事業所名	グループホーム 岱明の里
訪問調査日	平成 19 年 11 月 22 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 13 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月5日

【評価実施概要】

事業所番号	4372400863
法人名	有限会社 七丈原
事業所名	グループホーム 岱明の里
所在地	熊本県玉名市岱明町高道1090-1 (電話) 0968-66-8230

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本13-12-205		
訪問調査日	平成19年11月22日	評価確定日	平成19年12月13日

【情報提供票より】(19年10月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年3月23日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	10 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 3.9

(2) 建物概要

建物構造	単独 新築	木造平屋 造り
	1階建て, 1階	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,250 円	その他の経費(月額)	16,500 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(10月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 85.1 歳	最低	75 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立玉名中央病院・城ヶ崎病院・さくら歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム内外共に手入れの行届いた安全で清潔な環境の中、施設長の高齢者福祉に対する熱い思いが職員に浸透し、サービスの原点とは何かを摸索しながら入居者のよりよい生活のために職員一丸となって努力している。職員の育成に力を注ぎ、将来介護や看護の仕事を目指す学生に経験の場を提供している。開所5年目を向かえ、隣接のデイサービスと連携を図りながら地域に根ざしたホームを目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を受けて原点に戻り“本来のサービスとは何なのか”職員間で十分話し合い家族の理解のもと、病院受診や居室の掃除などに家族の協力が得られている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を再スタートの機会と捉え、全職員で会議を重ね、自己評価としてまとめ上げている。外部評価の結果についても全職員で改善へ向け取り組まれている。
重点項目③	定期的な運営推進会議が開催されている。家族会より毎回2名の家族の出席と、出席の無い家族には訪問時や家族会の中で説明が行われている。会議では検討項目の経過・外部評価後の取り組み状況等報告し出席者との活発な意見交換を行い、ホーム運営に反映させている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	毎月の明細書送付時に個々の入居者の近況を添え報告している。年4回の機関紙“笑顔の里”発行や面会時に健康状態の報告をし、遠方の家族には、定期的な電話連絡とテレビ電話設置により安心に繋げている。ホームページにも日常の生活状況を掲載している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣住民との挨拶や地域の祭りへの積極的な参加により交流を図っている。特に福祉祭りには手作りの作品を出品し入居者の自信に繋げている。多くのボランティアの受け入れや地域の清掃活動に入居者とともに参加する等地域の一員としての生活を支援している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型ホームとなり、全職員が“地域に根ざし支えあうホームでありたい”との思いから“ゆっくり・いっしょに・たのしく”をモットーに平易な言葉に作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングにて理念を唱和し、共有化を図り“職場の教養”を交代で音読し一日のスタートとしている。施設長の思いが職員との理念の共有により“いつまでもいきいきと輝いて”の生活を地域や家族の協力のもと実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム周辺の散歩時に近隣住民や登下校中の小学生と挨拶を交わしたり、地域の福祉祭りや夏祭りに積極的な参加による交流を図っている。特に福祉祭りには手作りの作品を出品し入居者の自信に繋げている。小中学生の演劇や掃除ボランティアの受け入れ・地域の清掃活動に入居者とともに参加する等地域の一員としての生活を支援している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を再スタートの機会と捉えている。前回の評価を受けて原点に戻り“本来のサービスとは何なのか”職員間で十分話し合い家族の理解の元、病院受診や居室の掃除などに家族の協力が得られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な運営推進会議が開催されている。家族会より毎回会長他家族が出席し、出席の無い家族には訪問時や家族会の中で説明が行われている。会議では検討項目の経過・外部評価後の取り組み状況等報告し活発な意見交換が行われている。	○	現在の運営推進会議への出席は限られた職員の参加である。今後は全職員に参加の機会があると家族とのコミュニケーションも増し会議に対する思いも深まると思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは運営推進会議の他、日常的に相談をしたり入居者の現況や行事の内容報告を行う等関係が構築されている。		
にち					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の明細書送付時に個々の入居者の近況を添え報告している。年4回の機関紙“笑顔の里”発行や面会時に健康状態の報告をし、遠方の家族には、定期的な電話連絡とテレビ電話設置により安心に繋がっている事が実際ホームページに掲載されているテレビ電話使用中の嬉しそうな入居者の表情より窺える。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会・行事の際に家族からの意見・意向を聴取し出された内容については速やかに話し合い日々のケアに反映させている。又、家族が意見を出しやすい雰囲気作りについても職員間で話し合っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者とホーム職員の馴染みの関係の大切さを認識し、離職が生じた今年度は、新職員の雇用時期を早める事により不安・ダメージを最小限に抑える努力が行われた。又、ホーム側は利用者と職員の馴染みの関係が構築されるよう職員のやりがいのある雰囲気作りにも配慮している。		
雇用					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修・実習にも積極的に参加する機会を作っている。参加後は報告書を作成し勉強会にて全職員が共有できる仕組が取られている。報告書綴りはいつでも確認できるよう事務所に設置されている。	○	今後職場内研修・勉強会の充実を図るためホーム独自の研修制度を充実させたいと意欲的である。実現に向けた取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多くのホーム研修に参加する等相互研修が積極的に行われている。今年度は地域ブロックの世話役を受け二ヶ月に一度研修会や講演会を企画し新人育成や情報の交換・質の向上に向けた取り組みを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居予定者本人や家族が安心・納得をして入居出来るよう本人のみや家族といっしょの宿泊体験など各々に応じた対応が取られている。又、ホームページによりホーム内の特徴や様子が詳細に掲載されており利用者の安心に繋がっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個々の生活歴や趣味に配慮し出来る事を見守りながら各々の役割を支援している。人生の大先輩である入居者から多くの事を学んでいる事を忘れず、感謝や労りの言葉掛けにより共に支えあう関係を構築している。訪問当日も食後の片付けを手伝う入居者へ温かい感謝の言葉を掛ける職員の姿があった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向をコミュニケーションや家族から聴取しケアに繋げている。又、会議や日々のミーティングでは職員間の情報の共有に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に十分なアセスメントを行い、日々の暮らし方について入居者や家族の思いを活かしたプランとしている。プランについては説明同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的あるいは家族の意向・医師の指示も含め入居者の状態の変化に応じ、随時の見直しを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員による受診対応や買物支援・理美容への対応等柔軟に対応している。隣接のデイサービスの温泉入浴やリハビリ器具がデイ休館日は無料で使用可能で入居者の体力維持や楽しみとなっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各々のかかりつけ医への受診対応を行っているが状況に応じて本人・家族の同意の上かかりつけ医の変更も行われている。	○	ホーム側は24時間対応可能な医療機関の確保に前向きに検討中である。家族への安心へ繋げるためにも早急な対応が望まれる。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期においてホームで対応できる最大のケアについても説明が行われている。又、看取り指針も作成されているが使用まで至っていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者一人ひとりを尊重し思いやりをもって接している。呼称は基本的に苗字としその時々に応じた呼び方をしている。個人情報についてもミーティングにて意識を統一しメモ紙に至るまで処理する事としている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	互いのユニットを自由に行ききしたり、本人の希望でデイサービスを利用される等入居者の思いを大切にし外出にも出来る限りの対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや盛り付け等入居者の力量により職員と共に参加されている。季節感を味わってもらう為、旬の食材を取り入れ同じ食事を摂ることでメニューや味付けについて入居者の好みの把握につながり楽しい会話の中、ゆっくり時間をかけた食事の支援が行なわれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に1日おきに入浴日を設定し午前中から午後四時位まで対応している。入浴拒否に対しては無理に誘う事無く、本人の希望や時間に応じているが、チェック表を用い、清潔保持に努めている。また、広い浴槽に気のあった入居者同士で入るなど支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの生活歴に応じて、台所仕事を得意とされる方や手先の器用な入居者が木材で椅子を手作りしたり、いつも玄関の靴をきちんと揃える入居者、モップで廊下やリビングを掃除する方等役割を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節を感じ取ることが出来るよう、入居者の健康や天候に配慮しながら散歩や外出は出来る限り希望に添った支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵を掛ける事での心理的な弊害について認識している。徘徊や入居者の外に出たい思いを尊重し、寄り添いや見守りで本人の行動を束縛のない支援を行なっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	開設時より消防署への緊急通報装置、火災受信機が設置され、防火・消化・防災計画書も作成している。訓練の際は消防署、消防団、近隣の方々、警備会社の参加・協力も得、訓練が行われている。今後も各機関、近隣にホーム内情を理解してもらいホームが一丸となっていくよう努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量をチェック表に記載し健康管理を行なっている。職員の知識によって偏らないような献立を作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間にはソファや冬には炬燵を設置し、ゆっくりテレビを見たり、体を休めたりと自由に寛げる雰囲気を作っている。デッキのベランダで仲良くお茶を飲んだり、一人でゆっくり過ごしたい人のコーナーも準備されている。床等汚れたらすぐに拭くことを心がけ、気持ちよく過ごしてもらえよう配慮している。北館と南館の採光と季節による温度等良い点をお互いの入居者が味わい居心地良く過ごせるよう配慮した活動もある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具の持ち込みやカレンダー・家族の写真を掲示し、ベッドの位置も本人の意向に添って設置する等思い思いの居室となっている。	○	今後も引続き家族の協力と合わせ、入居者と共に職員の気づきや配慮によって居心地良く過ごせる居室の支援をお願いしたい。